



富山県
指定文化財
史跡

まつ くら じょう あと 松倉城跡

富山県指定文化財 記念物 (昭和40年1月1日指定)

松倉城跡本丸より、富山平野を望む

魚津市の南部に位置する城山と呼ばれる丘陵上に築かれた山城です。城の構造は、南北方向に広がる尾根上を空堀で区切り、複数の曲輪(郭)によって構成された「連郭式山城」となっており、本丸部分は、県の史跡に指定されています。

本丸の奥、南端の曲輪である八幡堂から、最も標高の高い平ノ峰(標高430m)までの直線距離は約650mあり、尾根上には多数の平坦面が設けられています。また、松倉城の北西側にある大見城平には、多くの平坦面や石積み(石垣)の門があり、かつて城下町があった鹿熊地区へ至る山道も残っています。さらに、本丸(標高415m・面積3600㎡)から見渡す眺望は格別で、西に富山市方面、北に魚津市内を望むことができます。

築城年代は定かではありませんが、南北朝時代の14世紀前半と推定されます。その後、幾多の武将がこの城をめぐる争い、戦国時代末期の16世紀末にいたる約250年間の長期にわたって、新川郡の要として、政治的・軍事的に重要な役割を果たしてきました。また、この城の発展には、背後に控える松倉金山が関係していたと考えられます。

松倉城に関連する年表

南北朝時代	建武3年・延元元年(1336)	南北朝の対立が始まる。この頃築城か。
	建武5年・延元3年(1338)	越中守護の井上(普門)俊清が南朝方と戦い、松倉城へ逃げ込む。
室町時代	応安2年(1369)	前越中守護の桃井直常、松倉城に立てこもる。
	応永年間(1394～1428)	松倉金山が発見されたと伝えられる。
	永正17年(1520)	越後守護代の長尾為景が新川郡に進攻し、椎名氏らを破る。
	永禄3年(1560)	富山城の神保長織と敵対する松倉城の椎名康胤を助けるため、上杉謙信が越中に進攻。
戦国時代	永禄11年(1568)	椎名康胤が武田信玄と手を結び、上杉謙信に背いたことから、松倉城や魚津城が攻められる。
	永禄12年(1569)	上杉謙信が椎名氏討伐のため、再度越中に進攻。松倉城を包囲し、城の周辺に火を放つ。
	天正8年(1580)	織田信長が佐々成政を越中に派遣し、富山城の神保長住を支援。神保氏は松倉城近くまで進攻し、城下に火を放つ。
	天正10年(1582)	織田方の連合軍(柴田勝家、前田利家、佐々成政、佐々成政)が松倉城、魚津城に立てこもる上杉軍を攻める。「本能寺の変」の翌日、6月3日に魚津城が落城。
安土桃山時代	天正11年(1583)	佐々成政が魚津城、松倉城を攻略し、越中はほぼ平定。
	文禄4年(1595)	前田利家が新川郡を領有し、前田家が越中全域を治める。
	慶長年間(1596～1615)	慶長の初め頃、廃城になったとされる。



市内の 主な城跡 (市指定史跡)

1 うお づ じょう あと
魚津城跡

角川河口付近に築かれた平城です。また椎名氏の居館としての役割もあったと考えられています。その後、越後の上杉方の越中における拠点となり、天正10年(1582)には、松倉城とともに織田方の軍勢と激しい戦いが行われました。

2 ます がた じょう あと
升方城跡

丘陵頂部(標高241m・写真中央)に、本丸とそこを同心円状に取り囲む二の丸によって主要部分が形成されています。曲輪内には、土塁や井戸、石積みが残っています。また、周囲の斜面には、県内では珍しい畝状空堀群が計画的に配置されています。

3 いし もんとりで
石の門砦

高さ3～4mの石垣(石組遺構)があり、周辺には、曲輪や土塁などが残っています。石垣は、直径80cm前後の川原石を積み上げ、通路を挟んで向かい合う形となっています。通路は早月川右岸から峠を越えて鹿熊集落(旧城下町)へと続いていました。

4 みず お じょう あと
水尾城跡

松倉城の麓を流れる角川の対岸にあります。丘陵の尾根上(標高303m)を5箇所の空堀で区切り、4つの曲輪で構成されています。

松倉城跡

5 てん じん やまじょう あと
天神山城跡

天神山と呼ばれる独立丘陵上にあり、山頂部(標高163m)には2つの大きな曲輪があり、土塁や堅堀などが残っています。天正10年(1582)の魚津城の戦いでは、救援のため上杉景勝が陣を敷いた城として知られています。

6 さた やまじょう あと
北山城跡(金山谷城跡)

丘陵頂部(標高310m)を細長く平坦にし、長さ約250～300m、幅約70～120mの範囲に多数の曲輪や堅堀が残っています。山頂からは魚津市街地を一望できます。

7 づば の じょう あと
坪野城跡

坪野集落を望む丘陵上(標高466m)に空堀で区切られた2つの曲輪が並びます。城の周辺には上杉謙信にちなんだ伝説が多く残されています。

8 たけくま や しきあと
武隈屋敷跡(小菅沼城跡)

武隈家は松倉城主椎名氏の家老であったとされ、江戸時代以降もこの屋敷地に居住していました。屋敷の出入口は升形となっており、他に土塁や石垣が残っています。

松倉城跡周辺地図



松倉城とその支城群

富山県を代表する山城である松倉城は、その規模から、増山城(砺波市)や守山城(高岡市)とともに越中三大山城のひとつに数えられています。その松倉城を中心として、半径4km圏内には、升方城や北山城などの支城(出城)や砦などが配され、さらに半径8km圏内になると、魚津城や天神山城のほか、小規模な砦も点在し、広域な城郭群(松倉城郭群)を形成していました。

これらの城郭群は、山々が海に向かって張り出している魚津市特有の地形を、巧みに利用して築かれたものです。松倉城を守るように、升方城や水尾城、石の門砦が西側(富山方面)の防衛線を形成しています。一方、東側(黒部方面)の防衛線には天神山城を配し、さらに陸海路・河川交通の要衝の平野部に魚津城を配しています。また、市内を流れる早月川や角川・片貝川・布施川は天然の堀の役割も果たしていたと考えられます。

魚津市までのアクセス

